へ13
3749
15

門 へ13
3749
15

倭文庫 二拾九編

上之巻

万亭應賀作
歌川國貞画

嘉永七甲寅年
早春發市
江戸人形町通
上州屋重藏板

一集

釋迦八相倭文庫二拾九編之叙

此上冊の前編の讀續き目蓮の従弟なる摩訶迦葉
長者兄ゞ神通の不可思議ゆゑ大欲心と翻改し五戒酒林
[illegible]精舍を建立し如来の法施を献ぜられ扶下の
者共如来の御子小羅睺羅のあるゝ皆知ども善星童子の在ことを知
ざりしかれども此善星の来由ふりとゞ如来前世ハ阿私陀長者の
[illegible]糟に飯とのそ五百世驢ハ生まれ説及び憍林九彼提葉
盗み牛の報をうけるゝ阿那律富樓那の功を混ぜて聊五戒
の嚴重なるを女童子衆ゆゑ[illegible]なる而已

嘉永七甲寅年
孟春吉旦發行

万亭應賀誌

摩偈國の住人
目蓮の従弟迦
陵長者如来へ
精舎を奉呈
是を竹園精
舎と号く

釈迦如来

舎利弗

目蓮

大檀那迦陵夫婦

十大弟子の一人
天眼第一
阿那律
十大弟子の一人
説法第一
富留那
悉達太子の前世
河陀長者の娘と盗人五百世の間鹽の賊と夫婦の業果
今世悪人に持来
悉達太子の后妃鹿野女霊
夢を孕て男子を産
乞善星童子

應賀作 國貞画

安政四年丁巳春新板目録

俵文庫 三十七編 三十八編 三十九編 四十編 一陽齋豐國画 万亭應賀作

重の井菱染別小紋 七編 八編 為永春水作 同画

昔語小栗實説 二編 三編 松亭金水作 同画

花山吹百人女郎 初編 二編 柳亭種彦作 同画

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

常磐津懐中本 初編 二編 三編 四編

金重 繪州紙本類 人形町 上州屋重藏

倭文庫玲編

嘉永七年
甲寅新彫

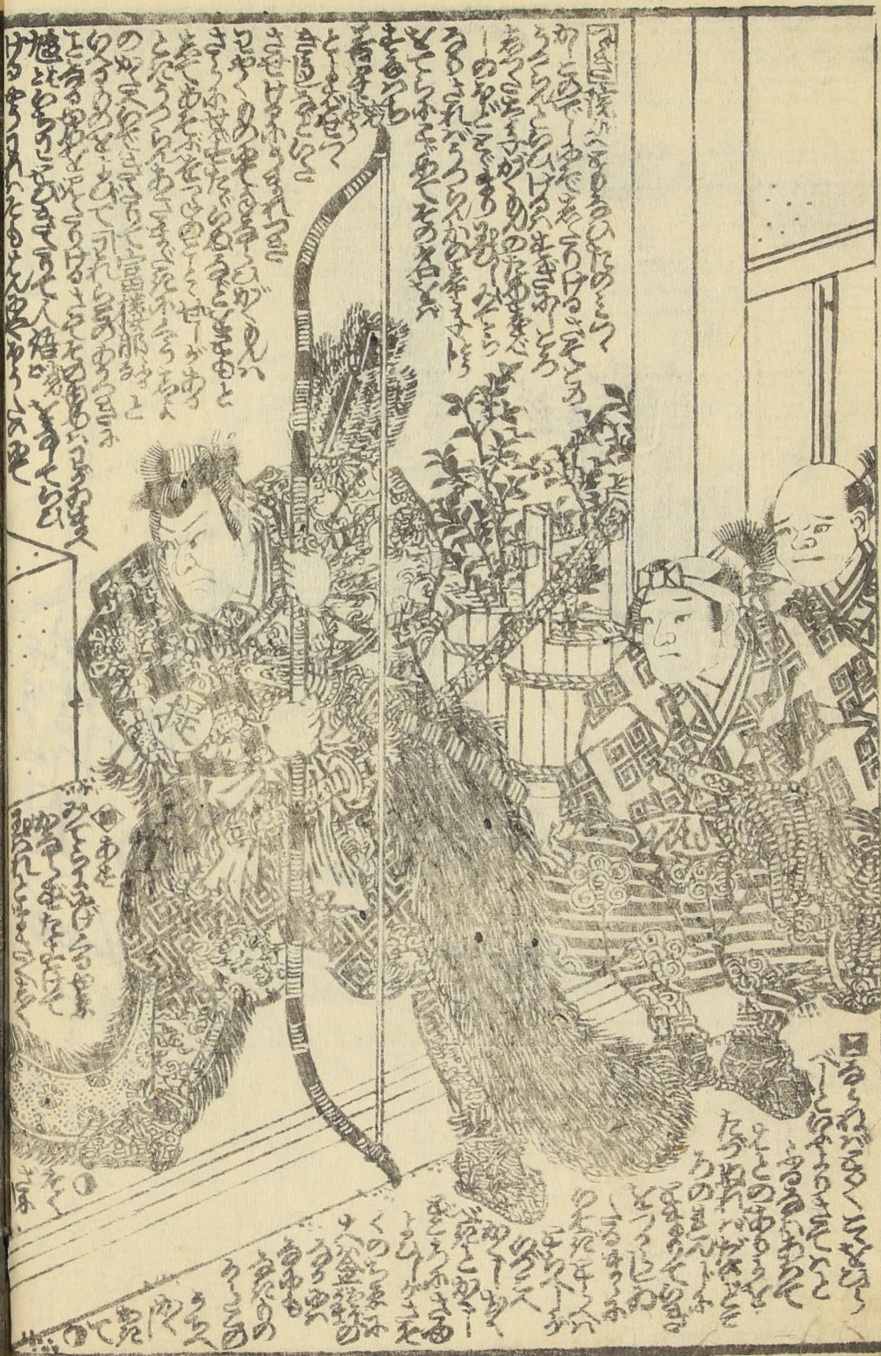
仆題曲五國画

錦重堂版

下

一楽
実の表 彩利
屋傳教文庫
二編九篇上の巻
應賀北
國貞画
彩亭樹

三
悪連の太子
御子善星の童子由来



宮田

あ

富
善

歌川國貞画

万亭應賀作

傾文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豐國画

春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画

男女振合　役替双六　当年のもんもんゆえ　同　一陽齋豐國画

武家奉公出世双六　同　同

奥奉公出世双六　同　同

極上摺　擬百人一首　百枚揃　一陽齋豐國画　一勇齋國芳画

重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續

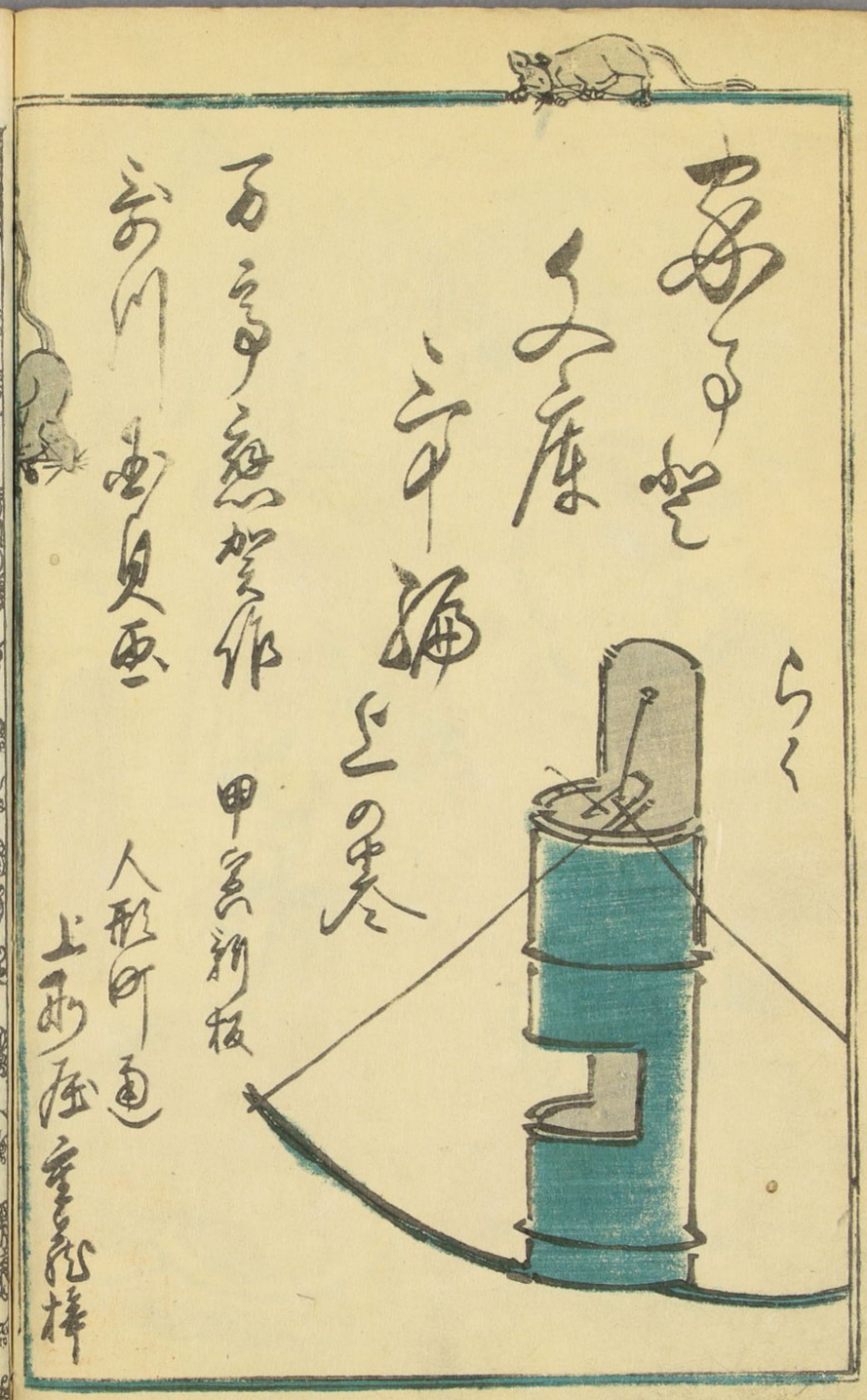
端唄さいの竹　中本上中下の三冊ふくろのたうさを
あつめるべれば　ものしるべくとうしれば
をそるべくばうまきたうとのかぐさなり

倭文庫三拾編

外題中之図多

嘉永七年
甲寅新彫

上



釋迦八相倭文庫三拾編序

天世界の万物は大極一元の氣を種として陰陽の二ツに陰陽合して物を生じたる有情と非情の二ツに有情とは人間畜類鳥類魚虫非情は草木金石水火土と云ふとは真心無念なる故米を時べ米を生じ麥の種より麥を生じ有情は有念なる故は能変化するゆえ中にも人は情欲の厚きを以て道四生は変化して水に苦悩を免れざるは是を深く憐れと如来他心通病命通の不可思議を顕し摩偈國王の夫人を度し邪師の欲婆羅を度し太迦葉は値偶舎衛國ふりてうせをを録して山冊子の讀切とるべしとを

嘉永八乙卯年
孟陬吉辰發行

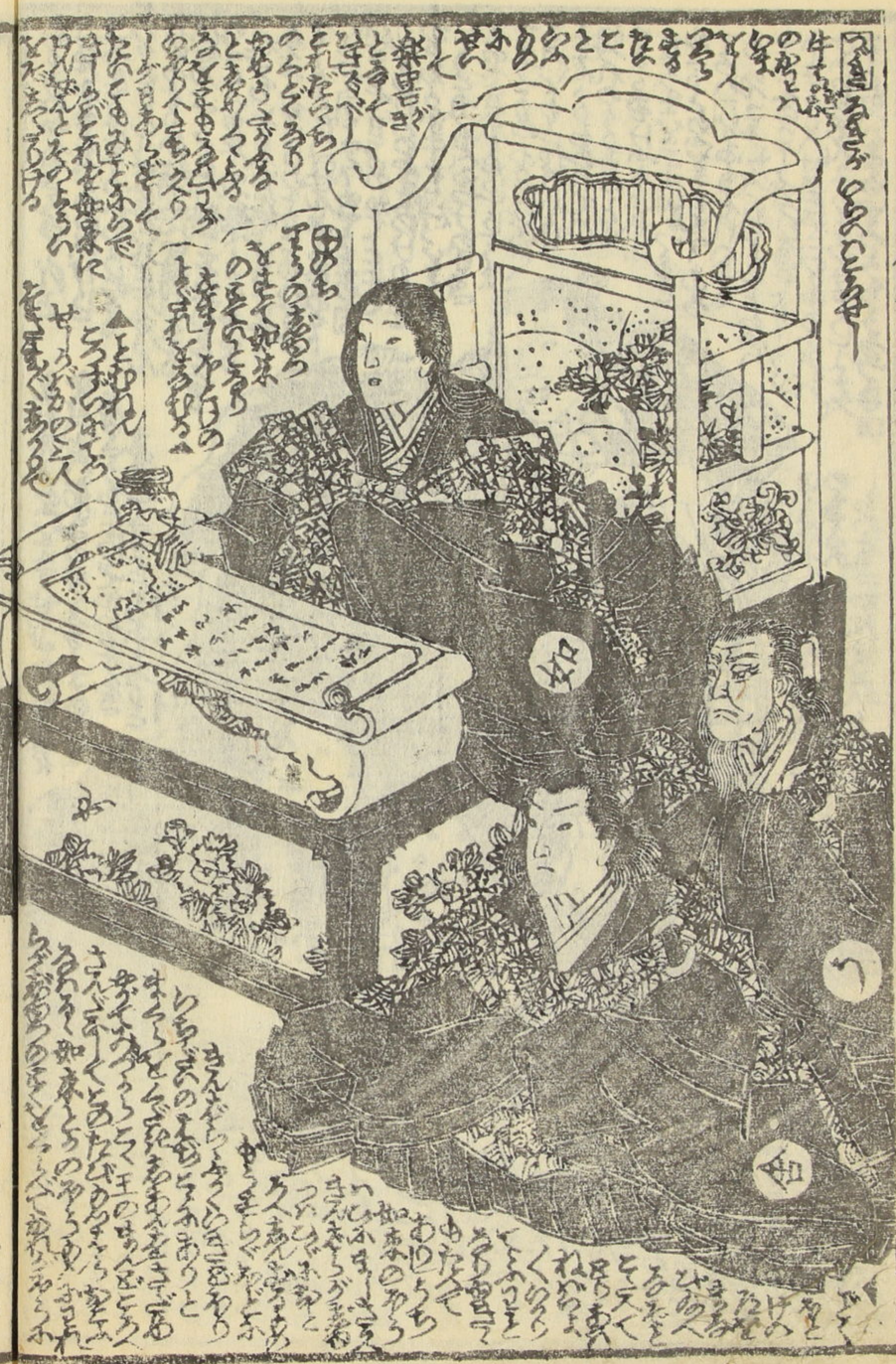
五方亭應賀誌

釈迦如来
切利天
帝釈の法樂神
緊那羅王
七金山の峯に
天女
舎利弗

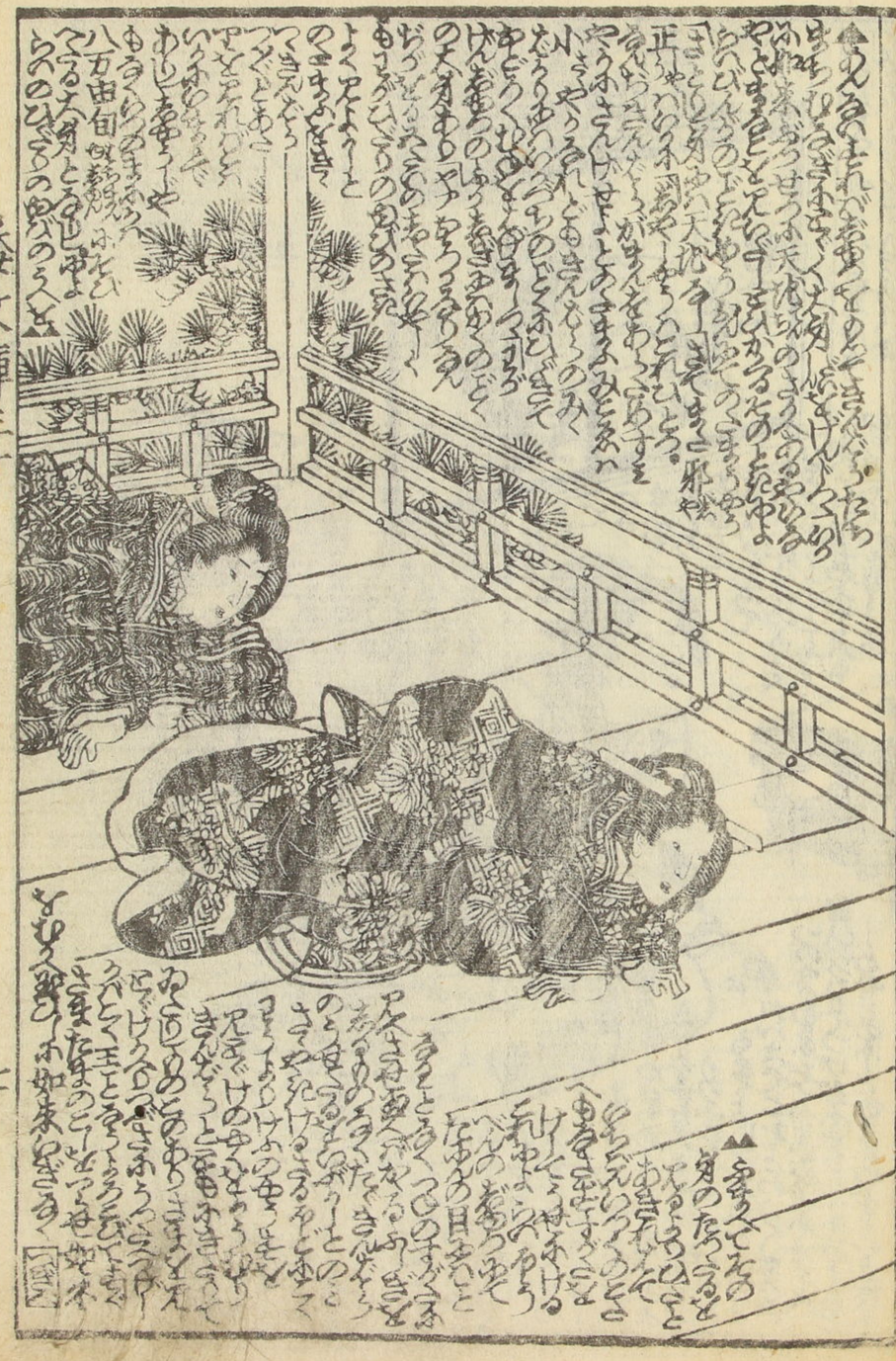
四天王
帝釈天王
釈迦如来に對
天樂を奏
此時舎利弗
前に舞
邪法の司阿闍羅翅舎
欽婆羅の父十方山の
緊那羅王
琴を
弾る

法楽神緊那
羅王の長子
邪師阿閦羅翅舎
鈔法羅
鈔法羅の
嬢摩那者

△未来の
正法を滅し
舎利弗
目蓮を
亡さんと企



如
月
合



俠文庫 三十七編 三十八編 三十九編 四十編 一陽齋豐國画 万亭應賀作

重の井菱染別小紋 七編 八編 為永春水作 同画

昔語小栗實説 二編 三編 松亭金水作 同画

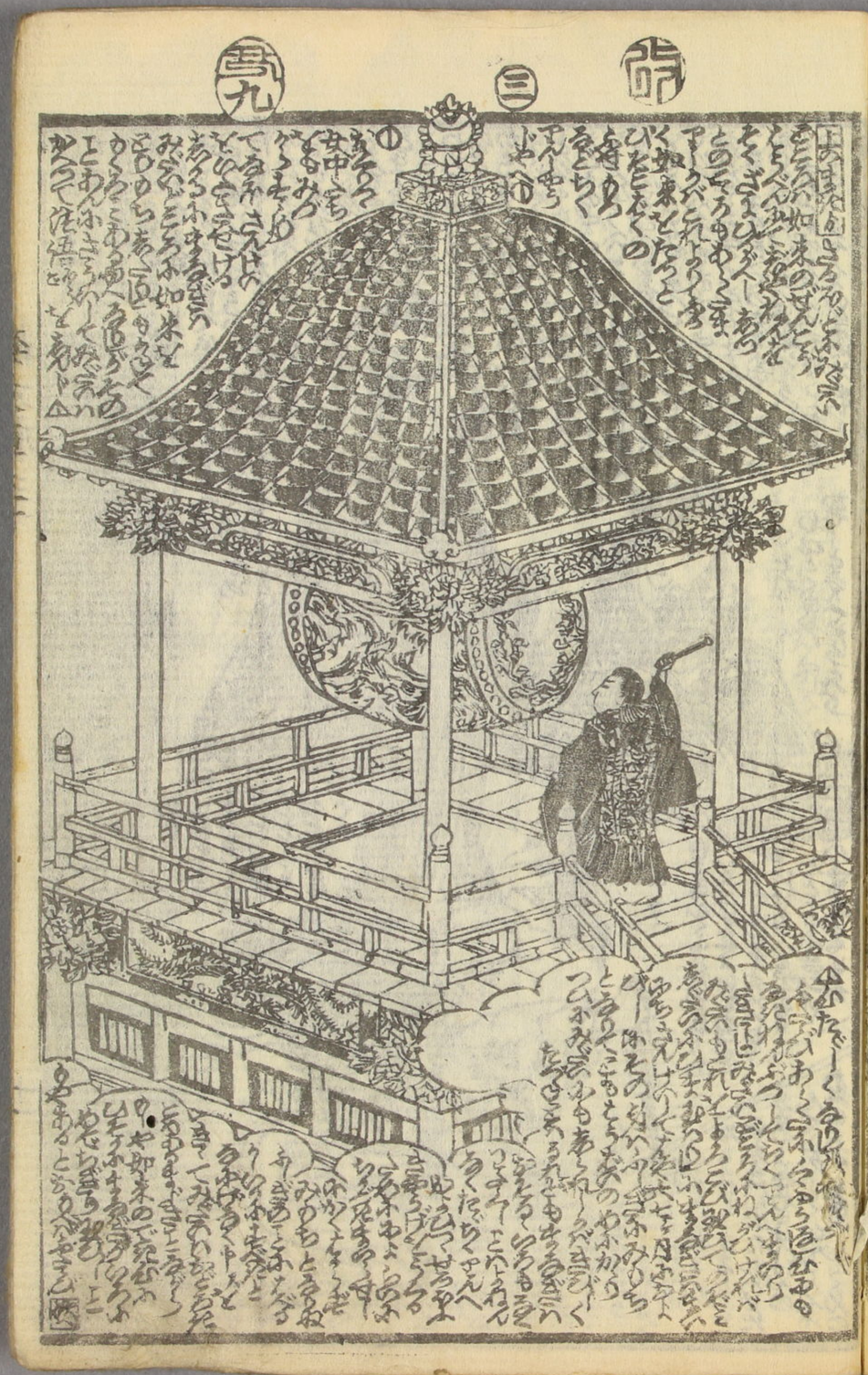
花山吹百人女郎 初編 二編 柳亭種彦作 同画

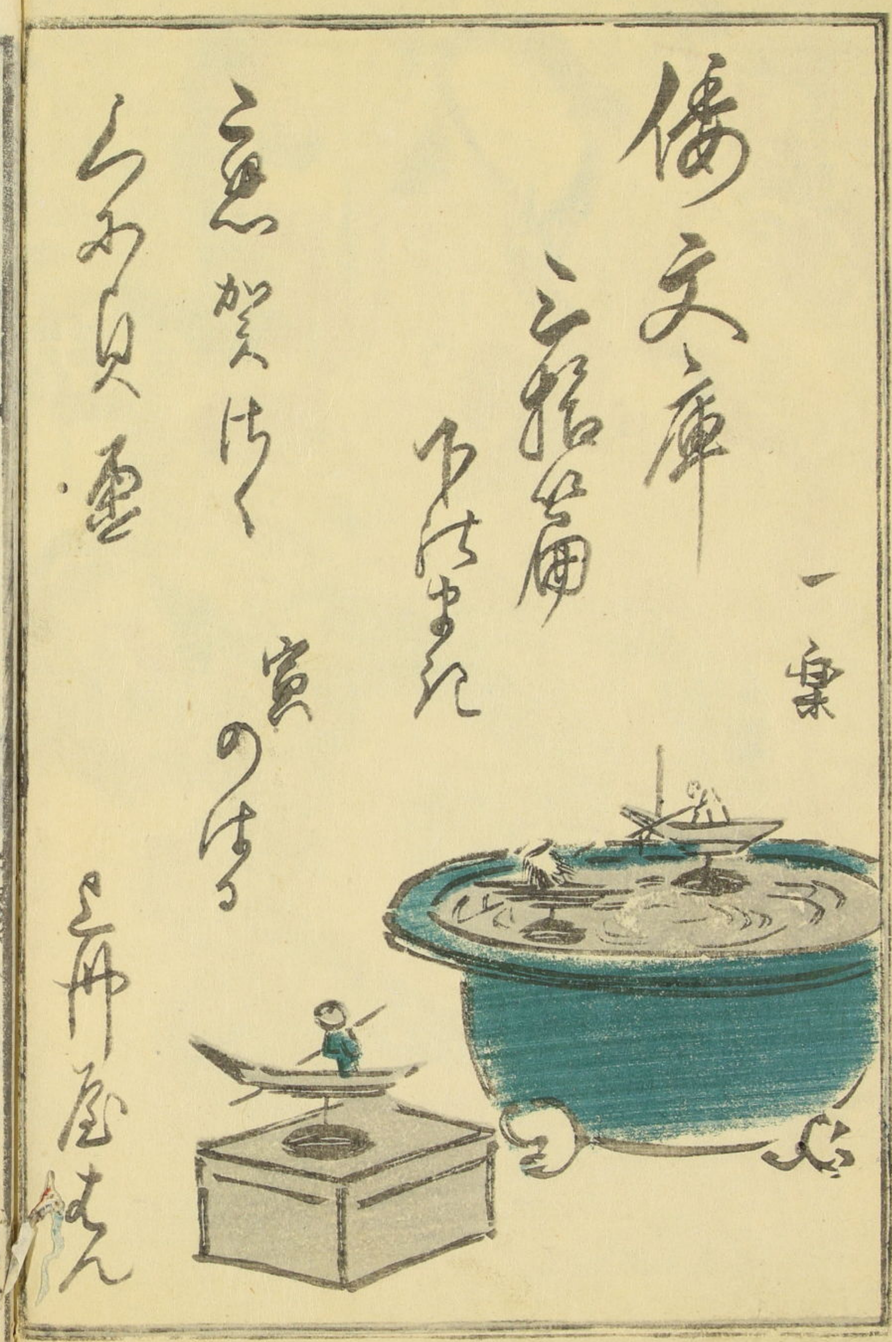
大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

常磐津懐中本 初編 三編 二編 四編

〈重 繪艸紙本類 人形町 上州屋重藏

應賀作
國貞画
錦重堂板
下

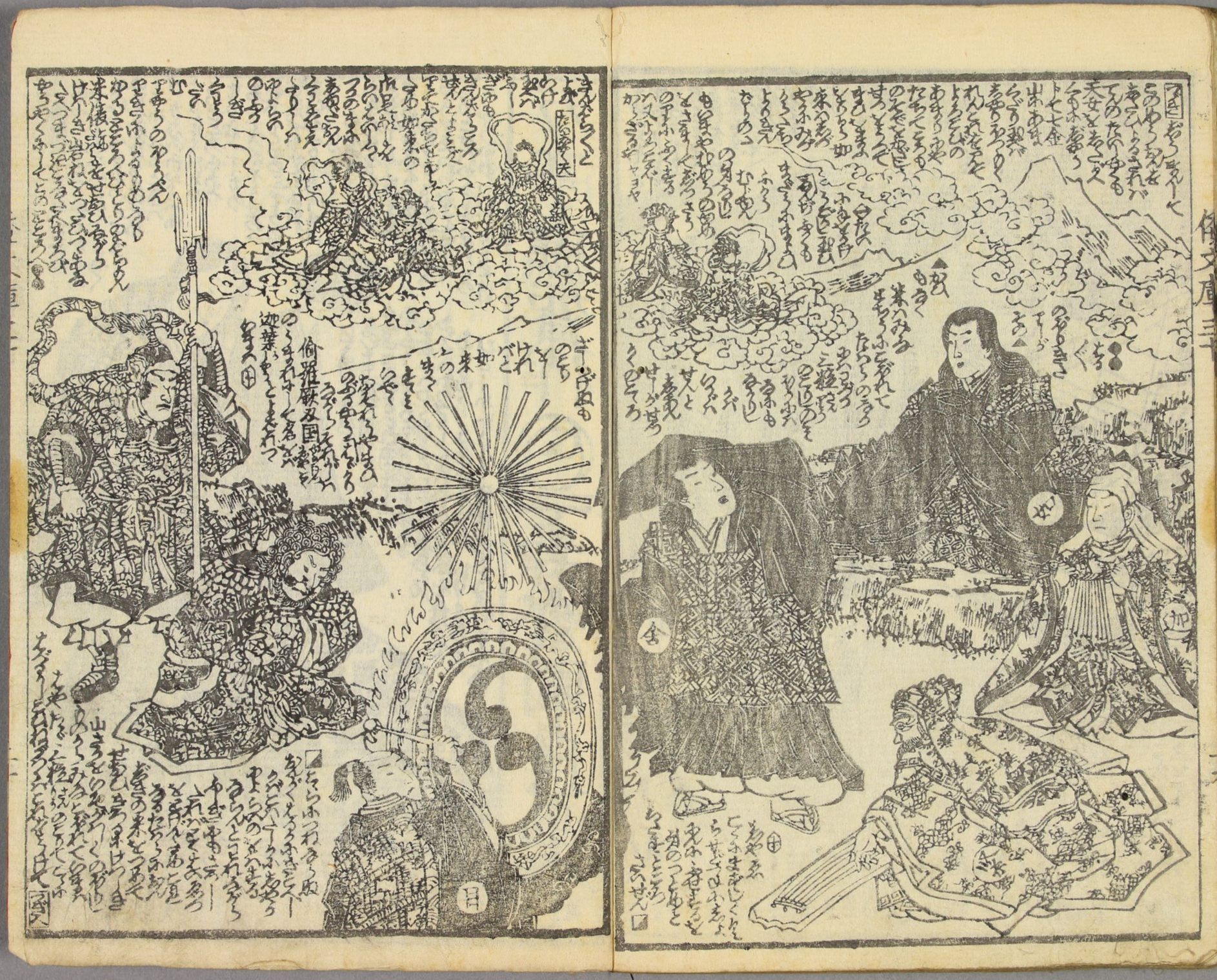



一集
傳文庫
元祿篇
寅の春

やくし大王

ちうりく天王

ちうりく天王



安政四年丁巳春新板目録

倭文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画
春の手遊　将棋双六　同　歌川貞房画
男女振合　役替双六　当年の恵方　同　一陽齋豊國画
武家奉公出世双六　同　同
奥奉公出世双六　同　同
極上摺　擬百人一首　百枚揃　一陽齋豊國画　一勇齋國芳画
重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續
端唄すいこの竹　小本上中下の三冊ふくろとじ

泰平御所物語